

花と食のフェスティバル



← 北農ブース



↑ フラワーデザインコンテスト出場作品

1月27日（土）、28日（日）、奥武山公園を会場に「花と食のフェスティバル」が開催された。本校からも27日に生産物販売で参加した。土曜日は6. 7万人程度の人出で、とても賑わっていた。通常の夏祭り等と異なり、殆どの出店や販売店が独自の商品開発等を行ったもので、見応えがあった。参加した生徒らも自らが育てた・作った農産物や加工品が支持されて、達成感があったと思う。引率・対応して頂いた先生方に感謝です！

大宜味村産業まつり

シークワサー酢 大宜味中

シークワサー酢の販売で意気込む大宜味中1年の生徒ら
=21日、旧大宜味小学校グラウンド

カラキ活用の食品 辺土名・北農高

カラキの加工食品をアピールする北部農林高、辺土名高の生徒ら

中高生が加工食品販売

大宜味村 地場産品生かす 産業まつり

【大宜味】第27回大宜味村産業まつり（主催・同実行委員会）が20、21の両日、旧大宜味小学校グラウンドで開催された。まつりでは、地元の中高校生らが自分たちで作った製品を販売し、訪れた人の注目を集めた。

大宜味中学校1年生27人列ができ、2日間で約40は総合の授業で開発、コープもきななどの協力で商品の品化したシークワサー酢を先行販売した。午前10時のオープンと同時に長い、張ると意気込んでいた。

大宜味村から家族連れで来場した久高秀樹さん（55）は、「まろやかで飲みやすいく、すっきりした味でおいしい」と感想を述べた。

辺土名高校と北部農林高の生徒らは、名護市から家族連れで来場した久高秀樹さん（55）は、「まろやかで飲みやすいく、すっきりした味でおいしい」と感想を述べた。

NPO法人沖縄有用植物研究会の興儀大志さんは「昔から親しまれているカラキの加工食品を、辺土名高と北部農林高に依頼して作っていた。地元の若い力を借りて活性化につなげていきたい」と期待を込めた。（安里都江通信員）

熱帯農業科と食品科学科では「カラキ」を使った商品開発を行っている（大宜味のカラキ活用推進協議会との連携開発）。大宜味村産業まつりで開発製品の販売を行った。中学生の開発した商品の販売もあり、地域の活性化に寄与する若い力が頼もしい。

いと感じた。指導・対応頂いた竹西・石嶺先生に感謝です。

なごサイエンスフェスタ2018



1月27日(土)、「なごサイエンスフェスタ2018」が21世紀の森体育館を会場に行われた。本校生物研究部は、「研究紹介 & ペットボトル空気砲」で教室を開催した。

日頃の地道な研究や地域との連携等、素晴らしい活動が続いている。今後の活躍も期待したい。指導頂いた志朗先生に感謝です

創立記念日(72周年)・同窓会設立70周年祝賀会

1月28日(日)は、本校の創立記念日(72周年)であった。式典のあと、同窓の神山正樹氏より「チャレンジ」という演題で講演をして頂いた。人生のターニングポイントで常に前向きにチャレンジしてきたことを話されていた。印象的な言葉は「なりたいものに自分から近づく」「なりたいものがあちらからやって来ることはない」という言葉であった。



本校は、ご存じの通り、北部農林高校になって72周年であり、前身の学校から数えると116年の歴史がある。

〔甲種國頭郡各間切島組合立農学校 → 県立国頭農学校(嘉手納移転) → 県立農学校(大戦で廃校) → 県立北部農林高等学校〕

卒業生も13,535名にのぼる。農業分野は勿論、産業界、政治・経済、教育・文化のあらゆる分野で卒業生が活躍している。同窓会・後援会からの支援は県内随一ではないだろうか。在校生には連綿と続く輝かしい歴史のバトンをしっかりと繋いで欲しい。

夕方からは、出雲殿で同窓会結成70周年式典・祝賀会が開催された。100名近くの参加があった。

前半の式典では、稲嶺市長からの祝辞や感謝状贈呈(第8代同窓会長安村武正氏・9代久場兼征氏・10代具志堅強志氏・前中南部支部長比嘉康智氏・前後援会理事長安田榮三氏)があった。



後半の祝賀会は、舞踊やバンド等々があり華やかな会となった

↑同窓の教職員による寮歌